



よさこいニュース

一般社団法人 高知県作業療法士会ニュース

<http://kochiot.com>

142号

2021.10.20発行

発行：平松真奈美
編集：森 祐輔

広報編集部からのお知らせ

01

広報編集部 部長 森 祐輔

広報活動について

広報編集部では、これまで会員の皆様に各部局の研修会などの事前広報や活動報告、士会からのお知らせをよさこいにゆーすとホームページから発信しています。今後は多くの会員の皆様に早くお知らせできるよう、ホームページを通して積極的に発信していきます。会員の皆様の日々の業務や個人のスキルアップに反映していただけるように取り組めますので、よろしく願いいたします。

公式LINEアカウントについて

士会では情報発信の効率化と作業療法の啓発・広報活動を目的に士会のLINE公式アカウントを作成しています。士会からのお知らせやホームページへのアクセスも簡単に行えるようになりましたので、ご登録がまだの方は先にお知らせさせていただいた登録の手引きに沿って、是非登録してください。

会員専用ページについて

ホームページをより活用しやすくなるように、今後はスマートフォンの画面でも見やすく分かりやすいようにページ構成を行うとともに、研修会の申し込みや士会、各部局からのお知らせなど、会員専用ページについても検討していきます。ご要望などがございましたら、士会事務局までご連絡ください。



一般社団法人
高知県作業療法士会

会員数 766 名

(令和3年9月末現在)



Webで詳しく

高知県作業療法士会
LINE公式アカウント



高知県作業療法士会
ホームページ



巡回相談員特集

子ども発達支援部
篠田 かおり 部長へのインタビュー



取材全文：
巡回指導に
ついて

Webで詳しく



「子ども発達支援について」

子ども発達支援部では、高知県教育委員会の外部専門家を活用した支援体制充実事業、香南市のいきいき香南っ子相談会に協力し、幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校からの申し込みに応じて、巡回相談員の一人として士会員の派遣調整を行っています。

相談員は、半日から1日程度、園や学校に出向き、診断名の有無にかかわらず、生活面や対人面で配慮が必要な児に対する、「なぜできないのか?」「どう支援したらよいか?」といった、先生方の悩みに対して支援しています。

相談員の登録者は不足しており、携わる作業療法士数自体が少ない、経験の年数や症例数が少ないといった状況です。そこで、研修会を年に1・2回開催するとともに、マニュアルや、情報収集、観察時の評価チェックリストの作成を行っております。

より多くの会員の皆様に小児／発達障害に関わり、また各事業の相談員として活躍の道を拓いていただきたいと思っております。共に学び、行政に参画し、作業療法士の専門性を発揮しましょう!

「巡回指導員の現状について」

士会の巡回指導の現状について

——巡回指導の依頼について教えてください。現在、(一社)高知県作業療法士会(以下、士会)の登録者は何名いますか?

篠田部長

高知県からの派遣依頼は、士会に窓口を設置しており、登録していただいている巡回指導員を園や学校へ派遣しております。令和元年は高知県から35件の依頼がありました。業務の都合もあり、依頼件数の約6割程度しか派遣できていない現状です。現在の登録者数は9名であり、今後は少なくとも20名を目標にしています。

巡回指導の実際

——巡回指導とはどのような方が参加して行われていますか?どのような方が対象となりますか?

篠田部長

巡回指導は、高知県・香南市により異なりますが、作業療法士の他に言語聴覚士・臨床心理士・県または市の職員で伺います。先生方の困りごとは、集団生活場面での課題が多く、参加ができない、片付けができない、流れについていけないなど困りごとは様々です。注意力や姿勢不良、理解力など様々な要因について観察から考えられる事をお伝えし、能力を伸ばす遊びや集団活動の提示、情報量の整理、椅子の形状などの提案を行います。自閉症スペクトラム障害の児では、離れた場所や先生の膝の上で集団参加ができないかなど、個々の課題点に対して、どのような手段を用いれば、集団内で参加ができるようになるのか助言をします。先生方からは、行動特性に合わせた有効な支援を喜んでくださったり、今の支援が有効だと確認できた場合、安心していただいています。

地域ケア会議特集

地域包括総合事業部
杉本 徹 部長へのインタビュー



取材全文：
地域ケア会議に
ついて

Webで詳しく



「地域ケア会議での作業療法士の助言・関わりについて」

現在のケア会議の参画状況と参画者の現状について

——現在、(一社)高知県作業療法士会(以下、士会)へ登録している助言者の現状、地域ケア会議への参画状況について教えてください。

杉本部長

現状の助言者の登録者数は、地域ケア会議スキルアップ研修まで修了されている91名(令和元年度時点)です。しかしながら、本来、派遣要件として用いているライセンス制度では、スキルアップ研修の次の段階である模擬研修までの修了を必須としていますが、その数はわずか20名と少なく、より人員が必要です。現状の登録者は、中央部の作業療法士が多く、東部・西部の作業療法士が少ない傾向にあり、東部や西部の市町村からも助言者派遣の依頼はありますが、その地域、もしくは近隣の登録者がいない場合は中央部より派遣している現状があります。ただ、その地域の課題がみえてきやすいのはやはりその地域の作業療法士であり、その地域、もしくは近隣の事業所の作業療法士の方がもっと参画していただけると心強いです。

実際の地域ケア会議の場面について

——実際の地域ケア会議の流れについて教えてください。

杉本部長

一般的な地域ケア会議は、多職種での症例検討会で、1時間半～2時間程度の時間の中で4名～6名程度の検討を行います。助言者には当日検討するケースの必要帳票類が事前に届き、それを熟読して助言のポイントをもとめて、当日の会議に臨んでいきます。当日の司会は、行政の担当課の課長や地域包括支援センターの主任ケアマネジャーが行います。ケースの紹介が司会や担当ケアマネジャーよりあり、助言をする多職種からの質問に回答し、最終的にその方のどういふところがポイントになるのかを、各助言者が1つか2つのポイントに絞って助言をするというのが大体的流れになっています。ただ、自治体によっては、1ケースで、事前配布がなく、その場で読み込むところもあります。